

(公財) 原子力環境整備促進・資金管理センター
第29回 最終処分積立金運用委員会 議事録

1. 日 時 平成26年 5月26日 (月) 9:30~11:30

2. 場 所 東京都千代田区霞が関3-2-5
東海大学校友会館 「富士の間」

3. 委員の現在数 5名

4. 出席した委員の氏名

委員長 浅野 幸弘
委 員 井潟 正彦
委 員 伊藤 敬介
委 員 山崎 元

以上 4名 出席

5. 議 題

- I. 最終処分積立金運用実績 (平成25運用年度実績及び平成26年4月末実績) (報告)
- II. 償還額推移及び種別構成 (第一種最終処分積立金) (報告)

6. 開 会

事務局から、本日の第29回最終処分積立金運用委員会は、同運営規則第4条の規定による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。

続いて、並木理事長が開会の挨拶を述べ、議事に入った。

7. 議事の概要

事務局から、上記5. の議題について、下記の説明を行った。

I. 最終処分積立金運用実績 (平成25運用年度実績及び平成26年4月末実績)

第一種最終処分積立金の平成25年度運用額は、平成24年度積立金受入額などから原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の償還額と利息収入を加え、1,096億円となった。

運用内訳は、国債656億円(60%)、政府保証債109億円(10%)、地方債110億円(10%)、事業債218億円(20%)と、ほぼ計画通りの運用を達成できた。

平成25年度購入債券の平均利回りは0.67%で、評価基準である‘当年度の運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り’0.63%を上回った。

平成26年度運用額は、平成25年度積立金受入額から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の償還額と利息収入を加えた1,029億円を見込む。平成26年4月末実績では、事業債を除きほぼ計画通り運用を実施している。

また、保有している地方債及び事業債の中で要注意区分とされている債券については、Tス

ブレットの状況や発行体の経営状態などを勘案し、現時点において、売却を要する状況にはない。

第二種最終処分積立金の平成25年度運用額は、平成24年度積立金受入額などから原環機構への取戻額を差し引き、当期の利息収入を加え43億円となった。

運用内訳は、5年国債43億円（100%）と、計画通りの運用を達成できた。

平成26年度運用額は、平成25年度積立金受入額から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の償還額と利息収入を加えた123億円を見込む。平成26年4月末実績では、ほぼ計画通り運用を実施している。

※運用年度対象期間は3月から2月まで。

上記Ⅰ.の報告について意見交換を行った。

Ⅱ. 償還額推移及び種別構成（第一種最終処分積立金）

年度毎の購入割合については、過去に数回見直しされたが、大幅な見直しはなく現在に至っている。これは、市場の状況等を反映しつつ、一貫した基本方針のもとで債券を購入してきたことによるものであり、その結果、現在の運用残高の種別構成は適切な比率である。今後の償還を含めた運用についても、現在と同程度の種別構成を基本的に維持していく考えである。

上記Ⅱ.の報告について意見交換を行った。

8. 次回スケジュール

平成27年1月下旬から2月上旬を目途に開催したい。

9. 閉 会

<委員会で寄せられた意見>

Ⅰ. 最終処分積立金運用実績（平成25運用年度実績及び平成26年4月末実績）

○運用計画通りに運用されており問題はない。

Ⅱ. 償還額推移及び種別構成（第一種最終処分積立金）

○事務局の報告内容で問題はない。

以 上

事務局：資金管理業務部 TEL：03-3534-4581